

アトリエ設計事務所
佐久間徹設計事務所働く

形より気持ちよさ、 暮らしやすさを 大切にした設計を

細やかなコミュニケーションで
顧客の思いを感じとり、質実剛
健な建物を生み出す代表の佐久
間さん、新人の大島さんに伺う。



佐久間徹設計事務所

佐久間 徹氏(左)
代表

1977年東京都生まれ。東京理科大学
工学部第一部建築学科卒業後、有
限会社アパートメント勤務を経て、
2007年に同所を設立。1級建築士、
管理建築士。

大島 堅太氏(右)

1992年長野県生まれ。2019年東京工
業大学大学院修了後、2019年入所。

吉

祥寺に事務所をかまえる佐久間徹設計事務所は、個人住宅、集合住宅、商業ビルなどの設計監理を手がけるアトリエ設計事務所。シンブルで機能的、長く気持ちよく暮らせる建物の設計を得意とする。そんな同所に入所1年目、さわやかな笑顔が印象的な大島

さんにお話を伺った。

「大学院時代には、留学も経験しました。当初は自由な発想の建築が好きだったのですが、だんだんと住む人にとって心地よい、いい、建築が好きになってきました」

就職活動中に、アーキテクチャーフォトのサイトで同所の求人を見つ

け、直感的に「ここがいい！」と応募を決定した。毎日朝9時には出社、夜は9時、10時まで残業という日もあるが、毎日はとても充実しているという。

同所の方針は、新人でも入った瞬間から、できるだけ自分の力で考え、てもらおうということ。大島さんも入

所早々に基本設計から任せられ、今は個人住宅の設計を担当している。

「作業に没頭できるタイプだし、考えることは苦になりません。ただ、施主さんとのコミュニケーションはときに難しいなと思います。言葉の引き出し方とか。これは冗談なのか？ 本気なのか？ と思うときもありますし(笑)」と大島さん。

施主とのコミュニケーションから言葉にできない思いをも感じとって設計に生かすことを大切にしたい、と話すのは代表の佐久間さんだ。

「実際、打合せの半分以上は世間話です。まずは雑談を通して設計者の人となりを信用してもらえようように努力して、そこからだんだんと施主さんのニーズを引き出していく。幸い大島君は今のところいい施主さんにあたっていて(笑)、いいコミュニケーションが図れています」

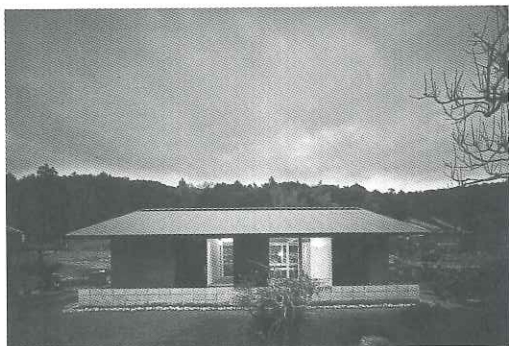
大島さんは、現在、軽井沢の宿泊

施設の設計も担当。スタッフには、ジャンルが偏らないように、住宅に限らずいろいろな案件を担当してもらおう、と佐久間さんはいう。同所では、設計スタッフが長く勤められる仕組みを用意しているものの、8年を目安に独立していくことが多いようだ。入所5年目になると仕事量をセーブしてもらい、1級建築士試験の受験対策に時間をあてられるのも魅力のひとつといえるだろう。

求める人材は、前向きで元気がいい人、そしてコミュニケーション力が高い人。個人の設計事務所だと、どうしても手堅くロスなくという方向に流れがちだが、チームだと冒険ができる。そこがチームで設計をすすめる強みだ。

取材中、終始にこやかに対応してくれた大島さんは、まさに佐久間さ

んのお眼鏡にかなう人材だ。「冗談も交えながら笑いの絶えない取材に、同所がいかに他者とのコミュニケーションを大事にしているかが実感できた。」



佐久間徹設計事務所作品「豊田町浮石の家」
竣工:2012年12月 用途:個人住宅 構造:木造平屋建て

※<https://architecturephoto.net/>